

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である

学校名	唐津市立田野小学校										
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上への取組として研究授業だけでなく、日頃の授業実践や家庭学習の出し方について定期的に職員間で情報交換の場を設けた。これにより話し合いのさせ方や支援の方法を学び、指導の充実につながった。今年度も継続し、職員の豊富な経験を職員で共有し、指導力を高めていく。 ・心の教育では、心のアンケートやQ-Uテストを実施して児童理解に努めた。また、教育相談や心のアンケートも回数を増やし、児童からのサインを受け止める機会を増やした。継続可能な方法を模索しながら、いじめの早期発見、早期対応に努めていく。 ・授業や家庭学習での1人1台端末（タブレットPC)の活用を全職員で実践を重ねてきた。これからの教育現場ではICTは無くしてはならないものになる。今後は紙媒体の教科書やノートとタブレットPCのそれぞれの良さを吟味しながら実践を重ね、タブレットPCのより効果的な活用方法を探っていく。										
2 学校教育目標	未来を見つめ「たくましく のびのびと こころゆたかに」 生きる 田野つ子 の育成										
3 本年度の重点目標	○子供に学力をつける……………個に応じた指導を通して、学ぶ意欲・基礎的・基本的な学力・思考力・表現力の向上をめざす ○子供に夢や目標をもたせる……日々の学習や生活の中で、将来に向けての夢や目標をもって取り組む児童の育成をめざす ○家庭・地域との連携を図る……家庭学習や生活習慣の定着および地域と一体となって活動する学校をめざす ○職能成長を図る……………研修の充実を図り、新しい教育課題に対応できる教職員の資質能力の向上をめざす										
4 重点取組内容・成果指標	中間評価				5 最終評価				主な担当者		
(1)共通評価項目											
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○児童の実態を適宜に把握し、①学ぶ意欲、②基礎的・基本的な学力、③思考力・表現力の向上をめざす。	○「唐津の学びスタイルチェックシート」に示した成果指標の平均2.4以上 ○学習に関する学校独自のアンケート調査を年間2回実施する。調査では、授業中や家庭学習に関する質問項目において、肯定的な回答の割合80%以上を目指す。 ○市販の単元テスト等において、各学年ともに正答率75%以上をめざす。	・田野小学校「学び方7か条」に基づく学習規律の継続と徹底を図り定着させる。 ・学力を向上させるための手立てとしての実践を職員間で共有する。 ・自らの力で問題に取り組み、できる喜びを学習意欲につなげる指導を図る。 ・「唐津の学びスタイル」に基づく授業実践について、全職員が定期的に自らの実践をチェック・検証し、共通理解を図る。 ・基礎基本の学力を高める取組として、朝の時間や昼休みなどを利用して、全教員で徹底して指導にあたる。		・		・		・	学力向上対策コーディネーター 研究主任	
				・		・		・	学力向上対策コーディネーター 研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の立場に立って、考えを認めたり、折り合いをつけたりできる児童80%以上	・年間7回の「心の集会」(人権集会)を実施し、児童の人権感覚を高める。 ・道徳の授業において、「考え、議論する」授業形態を通して、道徳実践力を育成する。		・		・		・	道徳教育推進教師 心の教育担当者 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生活アンケートや心のアンケート、Q-Uテストで気になる児童の早期発見に努め、Q-Uテストで「学究生活安定群」の割合を80%以上にする。	・生活アンケート心のアンケートの後に情報交換と共通理解を行い、Q-Uテストの実施後は、研修会で分析を行い、学級経営に生かす。 ・学級経営案の中に「いじめ防止」の視点を取り入れ、児童を観察し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。		・		・		・	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任	
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・学校生活のあらゆる場面で、児童の「がんばり」や「よさ」を見取り、その場で直接に声かけしたり、児童みんなに紹介したりすることを通して自尊感情を向上させる。 ・道徳や学活等の中でのキャリア教育の充実と、体験活動の充実を図る。		・		・		・	(主)教務主任 (副)各学年主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・6月の食育月間に合わせて、食事に関するアンケートを取り、それをもとに、健康に良い食事をすることの大切さについて指導を行う。(集団、個別) ・アンケート後の変化を知るため、2学期に再度アンケートを実施する。 ・1月の全国学校給食週間では、児童すこやか委員会による給食や食事についての興味・関心が高まるような取り組みを行う。		・		・		・	養護	
	○運動習慣の定着化及びスポーツチャレンジの実施	○体づくり運動を奨励し、昼休みにおける外遊びの習慣化を図る。 ○スポーツチャレンジ達成率80%以上	・全校体育を年間9回実施する。 ・雨天時の体育館使用を奨励する。 ・昼休みは児童と外で体づくり運動を行う。 ・スポーツチャレンジや持久走月間では、児童への声かけを積極的に行う。 ・スポーツチャレンジの成果を掲示板などで学年別に掲示する。		・		・		・	保体部主任	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議における時間短縮と効率化を図る。 ・毎月半ばに時間外在校等時間の状況について確認することで、45時間を意識させる。 ・定時退勤日の実施と、タイムマネジメントを意識した働き方への取組を図る。		・		・		・	管理職 教頭	
	○職場の環境整備	○明るい職場づくりを目指し、職員室の美化や整理整頓、職員同士の相互理解を図り、「働きやすい」と回答する職員90%以上	・職場三原則の励行 ①礼を正す ②時を守る ③場を清める ・職員連絡会におけるショートスピーチを輪番で行う。		・		・		・	管理職 教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育及び個別の支援の充実	○教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する校内研修を年2回以上実施する。 ・必要に応じて心理検査を行う。	・1学期中に特別支援学級と通級による指導の対象となる障害の種類及び程度についての研修を行う。 ・夏季休業中には支援を要する児童に対しての有効な支援方法についての研修を行い、共通理解を図る。		・		・		・	特別支援コーディネーター	
○1人1台端末の活用	○タブレット活用の向上	○学習の中でタブレットを活用することができたと感じる児童80%以上	・タブレットの効果的な活用を推進する。 ①意見交流におけるオウリング等の利活用。 ②ドリルパークを利用した、児童一人ひとりの学習進度に合わせた個別学習の推進。		・		・		・	情報主任	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・										